

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.24 (1997.7.24号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1997.9.18. ; 8,[3]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

文通の輪が広がっています。

3月から被災地との文通を呼びかけて以来、全国の数百人の子供たちから約千通の手紙が届き、文通サークルも全国十数カ所にできました。手紙は直接被災した方々に届けていますが、体の不自由な方が多く、返事は一部です。それでも一人で何通も出している子もいて、受け取った方々もいつも手元において大事にしておられます。一通の手紙から会話が弾むこともよくあります。

今、文通の文集作りをすすめています。文集は、被災地の小中学校に呼びかけて、子供たちに地元で配ってもらいます。被災した子供たちも又、心に深い傷を負っています。そうすることで、これから各地に散らされていく仮設や避難所の方々とつながりができれば、地域にコミュニケーションが生まれ、多くの傷がいやされるのではないのでしょうか。

そのネットワーク造りに向けて、4月に出張所、7月には拠点事業所を神戸に開設しましたが、市民立法や市民活動法案が又もや国会で先送りになったため、被災地を支えている各団体にとっては苦しい状況が続きます。チャリティ美術展の全国開催や街頭カンパ、バイトなど資金造りに奔走しています。皆様の支えが必要です。(鄭チョン)

※折り込みに関連の記事があります。

[記事あり 小・中学生に文通呼びかけ<朝日新聞'97.4.26> 省略]

[記事あり 被災地のお年寄りに手紙を 省略]

[写真あり 手紙を届ける 省略]

「ほっとライン」チャリティー美術展

阪神・淡路大震災から2年半が過ぎ、復興を目指す地域社会の中で生活格差が拡大し、災害弱者が取り残され、現状の厳しさ、展望もなく癒えない心の傷を抱え不安をつのらせておられます。今こそ事情にあった生活全般に亘るきめ細やかな支援が必要だと思われます。唯一県外震災支援団体となったコリアボランティア協会では、常駐体制をひき息の長い支援活動を続け、心身のケアの強化を計りたいと思っています。

その支援活動の財政基盤確立の為、全国に震災を忘れないでの願いを込め復興の目処がつくまでどこかの地で催されている「ほっとライン」チャリティー美術展開催を企画しました。とりあえず、三会場が決定致しました。

(折込をごらん下さい。) 書道家で高麗書道連盟会長でもある康秀峰코리아ボランティア協会代表の作品を出品するほか、黒田征太郎さんを初め、芸術家の皆様に作品をご提供していただいております。今後、全国展開を予定しておりますので、

1. 企画、運営していただける方。
1. 場所提供していただける方。
1. 購入していただける方。
1. お手伝いしていただける方。

等募っております。ご協力お願い致します。

(c)1997코리아ボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)